

ながみнадより

令和7年2月3日 第22号

カラー版、掲載以外の写真は学校ホームページへ



令和6年度

ながみなの 「自律」と「共感」

「自律」
自己選択・自己決定のプロセスを積み重ね、自己指導力・自己肯定感を育むことを、
子どもたちがこれからの時代を「生きる力」に。

「共感」
「失敗」「間違え」「できないこと」の受容、支援を、子どもたちの「安心」「安全」につなげ、
互いを大切にできる、「居場所」と「持ち場」のある学校に。

おじいちゃんやおばあちゃんが「ええ塩梅じゃ」と上機嫌で口にするのを聞いたことはないでしょうか。塩梅は「あんばい」と読み、意味は「料理の味つけの具合や加減」「機械の調子や体の健康、仕事などの状況」「物ごとやスケジュールなどを考えて処理したり整えたりすること」などの意味をあらわします。こんなこと書いてはいますが、何も料理の話をしたいわけではありません。学校における「ええあんばい」のお話です。

先日の兵庫教育大学のセミナー(だより19号)でご縁をいただきました、先生の幸せ研究所 代表取締役 澤田真由美さんが、「心に麻酔を打ちながら、学校に行っていないか」というタイトルで記事を書かれています。校長として共感できる部分が多くあり、今の課題意識と相まって“ぶっ刺さり”しましたので、部分的に引用しご紹介します。(口の中が引用です)

(前略)何かを得る時に、いつの間にか別の何かが失われているということがある。

テストの事前練習をすれば、点数は目に見えて上がる。放課後まで発表会の練習をすれば、本番は素晴らしいものになる。頑張った子どもたちにも指導した先生たちにも、達成感や喜びがある。

しかし、目に見える成果には反映されないが、その裏では押しやられた何かがあったかもしれない。例えば、普通で丁寧な日常の授業、子ども同士で過ごす何気ない時間、目を細めて子どもとおしゃべりするゆとり、コーヒ一片手に子どもの様子について交わす職員室での会話など。

こうしたさりげない素朴な日常の価値は、目に見えにくいし数字で測ることもできないため、そっと失われても多くの場合は気付かれない。逆に、目に見えやすい成長やその過程は分かりやすいため、価値付けられやすい。良いあんばいは人それぞれなのに、有無を言わずその渦に巻き込まれていくな、学校はしんどい場所になる。

児童生徒の不登校、教職員の病気で休職や、教員のなり手不足による欠員。すべてが過去最高を更新中です。学校はもはや安心・安全な場所ではなく、窮屈さや閉塞感、しんどさを感じる人が一定いる場所と言わざるを得ません。とにかく子どもたちも先生も忙しすぎる気がしています。澤田さんの記事は下記のように続きます。

今一度「少ないことの豊かさ」や「緩めることの良さ」について考えてみたい。今ある良さを再発見したり、うまくいかなさもまるごと受け止めたり、むしろ少なさやシンプルさ自体をゆったりと味わうという選択もある。(中略)その時・その場・そこにいる人に応じて、良いあんばいを見つけたいし、それを見つけることは学校の専門性の一つだろう。

「少ないことの豊かさ」や「緩めることの良さ」って素敵な言葉ですよ。おこがましいかもしれませんが、自分がながみなの校長になって取り組んできたことを、肯定していただいたようにも感じました。いつも言うように、学校における「こうすべき」「こうあるべき」を適切に手放し、みんなにとって安心・安全な学校をつくりたいと強く思っています。そして、先生にも子どもたちにも、ほんの少しのゆとりを届けたい。今の学校はやるべきこと、求められることが少し多すぎます。そして時代にそぐわず「みんなと一緒に」を求められる(良しとされる)場所でもあります。正直校長としても、「学校のええあんばい」が見えにくい。だって人それぞれ感じ方は違って当然だから。

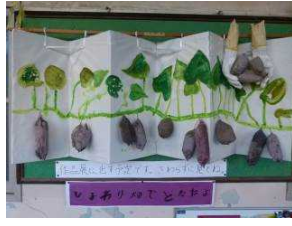
ご案内させていただいたように、今月から毎日行っていた掃除を週2回にする実証実験を行っています。本当に教室の汚れはひどくなるのか？私は子どもたちに集会で「使う人の意識」をお話ししました。子どもたちの自治にも期待したいところです。同時に先生方の会議も集約して、減らすことに挑戦しています。先生にも子どもたちにもゆとりができて、互いに笑顔で会話することが増えますように。事なかれ主義の校長になるのではなく、私にやれることから、どんどんやります！ながみなの関わる子どもたち、先生方をはじめとするすべての人が、ほんの少しでも幸せになりますように。

過去と他人は変えられない。しかし、今ここから始まる未来と自分は変えられる。心理学者 アルフレッド・アドラー

1・ながみな美術館

校内を歩いていますと、たくさんの作品に出会えます。先生方がきっちり掲示してくれているからですね。

(左から)3年 モチモチの木・5年 調べ学習・ひまわり 芋ほり・2年 かさじぞう・4年 ぶどうの絵です



2・English day !

5人のALTが集結し、ながみな英語村を開催しました。子どもたちとのやり取りはAll Englishです。1・2年生は英語の数を使ったゲームを。5・6年生はright left up downなどを使って、ALTの先生に、校内を案内しました。たった1時間のことですが、子どもが英語を学ぶきっかけになればいいなあ。

3・次のステージへの準備

6年生が中学校のクラブを見学に行きました。この日は期末テストということもあり、ラグビー部とバスケット部しか見学できませんでしたが、なんとなーくイメージできたでしょうか？クラブに関しては、学級とまた違った人間関係を構築できるのがいいところです。居場所は複数あっていいのです。ぜひ、何かやりたいことを見つけてほしいものです。

4・こうやって成長するんだ

1・2年生が合同で図工に取り組みました。久宝寺緑地で集めてきたどんぐりを使って、1・2年生がアイデアを出し合い、遊び道具を作ります。1年生を引っぱる姿を見ると、2年生がしっかりしてきたなあ実感します。子どもにとっての1年、とても大きな1年ですね。

5・みんなで力を合わせて

先生方の体調不良が続いています。特に担任が不在となってしまった、3・5年生には負担をかけていると感じています。3・5年生の体育は校長が授業をしております。もし、お子様の学校での様子を見たいなどご要望があれば、私の授業を開放しますのでご連絡ください。ながみなの学校規模での先生の数では法で16名と決まっています。これには管理職2名、事務職員、養護教諭を含むので、実質授業をする先生は12名。そこが2名減なので、本当に大変です。残された先生方は力を合わせて、本当によく頑張ってくれていることをお伝えしておきます。

6・自分事として考えられるか

4年生が大連小学校の4年生と交流を持ちました。2校合同で、本市小学校の先生でもあり、車いすのユーザでもある方からお話を聞かせていただきました。ある日交通事故で車いす生活になる。自分だったらと想像できる、優しさのある人に育ってほしいものですね。

7・作ったら遊ぶ

どんぐりを使って、遊び道具を工作した1・2年生。後日その道具を使って、みんなで楽しく遊びました。特にテーマはないので、色々な遊び道具があり、仲良く交代で遊んでいたのが印象的です。子どもの発想って、とっても面白いですね。

*まだ記事の内容が12月上旬…タイムリーにならず申し訳ございません。子どもらのこと好きで、様子見に行きすぎて記事にすることが多すぎます。引き続き頑張って発行します！

